

(様式2)

議員行政視察報告書

| | |
|---|-------------|
| 議員名 | 植木だいすけ |
| 視察地 | 熊本市 |
| 視察年月日 | 2024年01月16日 |
| 視察内容（目的・具体的内容・成果等） | |
| サクラマチクマモトと花畑広場によるにぎわいの創出について | |
| <ul style="list-style-type: none">・熊本市 人口約74万人 面積約1,390km² 人口密度1,891人/km²・旭川市 人口約32万人 面積約1,748km² 人口密度1,430人/km² (熊本市は本市の人口の約2.3倍、面積は約1/4、人口は密度4.4倍) | |
| <p>熊本市は、公共交通結節点を起点としたコンパクトシティを形成し、中心市街地では人中心の快適な都市空間、上質な景観・賑わいの創出、多様な移動手段といったウォーカブルなまちづくりを取り入れ、中心市街地の拠点性と回遊性の向上に取り組んでおり、本市と共通点がある。</p> | |
| <p>熊本市役所は熊本城の下に広がる地域に位置し、視察地である桜町・花畑地区は市役所から徒歩5分ほどの距離。同市役所で職員の方から説明を受けた後、現地を案内いただいた。同地区一帯には繁華街が広がり、大手企業のビル、ホテル、公共施設などが立ち並び、電車やバスも多く往来している。その境界で一際目を引くのが「熊本城と陸つづき『まちの大広間』」をコンセプトに、車中心から人中心の考えに転換し官民協働で取り組んだという再開発地区。屋上や各フロアのバルコニー部分が緑化整備され、バスターミナル・ホール・ホテル・商業施設・公設保育施設・住居の機能を複合的に備えた「SAKURAMACHI Kumamoto」（2019(令和元)年開業）、大型屋外イベントも開催できる開放感のある「花畑広場」があり、4車線の市道を廃し老朽化した建物を解体して整備した広く都会的な歩行者専用プロムナードは、熊本城を一直線に望むことができる。</p> | |
| <p>また同再開発は、中心市街地に緑を取り入れて開放的で居心地の良い空間を作り出しただけでなく、災害時拠点強靱化緊急促進事業、防災・省エネまちづくり緊急促進事業として再開発が行われていることからわかる通り、平成28年の熊本地震を教訓にした防災・減災を取り入れた再開発となっている。</p> | |
| <p>同地震で甚大な被害を受けた同市では、市民生活の再建支援を最優先にしつつ、高い経済波及効果を有する同再開発事業を復興の旗頭として地域経済の再生に取り組んできたという。地震を教訓にしたまちづくりにより「SAKURAMACHI Kumamoto」を中心に防災機能が備えられ、災害時には帰宅困難者11,000人が3日間滞在することができる物資の備蓄のほか、飲料・雑用給排水・電気も3～4日賄えられる。広場には手押しポンプが設置され、マンホールトイレはすぐに設置・稼働させられる。</p> | |
| <p>訪問時、「SAKURAMACHI Kumamoto」、「花畑広場」、プロムナードを横切るバス道路を封鎖して自動車を迂回させ、道路上に人工芝や椅子・テーブルを配置して路上も広場</p> | |

として開放することで、さらにその道路を挟んだ反対側の公園までを一帯的に広場とする社会実験が行われており大変興味深かった。境界の事業者・利用者の理解があってこそその実験とのことで、道路が封鎖されたことで自動車の流れが変わり、近隣の民間駐車場への利用行動に影響が見られたり、企業活動に影響が出たりしているとの話であったが、地域の魅力を高めることで新たなニーズを発掘し駐車場利用者を確保することを目指すという。

本市においては、買物公園が当初からウォークブルの理念をいち早く先取りした全国に誇れる通りであるが、通りにはマルカツやオクノといった耐震性に問題を抱える大型施設があり、かつては買物公園で歩行者数が一番多かった2条買物公園に面したマルカツは現在も閉鎖されたままで、跡地利用・再開発を求める声も上がっている。商店街も空き店舗が目立つ区画もあり、シャッターが下り老朽化しつつある建物による無機質な圧迫感、建物が取り壊されてそれまで隠れていた部分の表出による雑多感により、せっかくの開放感や居心地の良さが損なわれ、余計に買物公園のフォーマットを古く感じさせている。

同市の「花畑広場」は、何もイベントのないような日は、広場で寝転がったりレジャーシートを広げてくつろいでいる市民がいるというが、買物公園はどうしても幅員が限られ「通り」としてのイメージが強いため、そういった利用がなされていることを目にしたことはない。そういった意味で、買物公園に面した土地を「広場」としてどこかに確保して奥行きを設け、イベント時には買物公園に人流を起こし、イベントのない時には寝転がれるぐらいのゆっくりとした時間を過ごせる空間として、買物公園に新たな価値を生み出せないものかと思う。

また、長い目で見た買物公園・商店街の活性化・維持には、市民無料駐車場を整備しなければ大きな解決にならず、商店街は沈下していく一方であると思っている。無料駐車場を設けることで近隣の駐車場経営を圧迫することになると本市部局は言うが、実は車を置いた後の行動範囲は限られており、また、駐車場経営を本業とする事業者はまさに限定的で、大半は土地が売れるまでの間の有効活用として設けられたコインパーキングの寡占状況となっており、手数料収入も限定的であると考え。熊本市の社会実験による民間駐車場の話と一概にはできないが、買物公園一帯の魅力・ニーズが上がれば現在コインパーキングとなっている土地が取引されることも十分ありうるのではないか？本市最大の商店街に店を構える事業者ですら経営に苦しみ、存続が約束された店舗などない状況であり、買物公園の大きな特色である商店街を将来にわたってしっかりと維持して機能を果たしていくために、これからも継続して訴えていきたい。

買物公園では次年度、エリアプラットフォームがスタートし、合わせて「空間活用」にスポットを当てた社会実験を行い、通りをモビリティが走ることになっている。しっかりと市民の方々の感想・意見に耳を傾け、自分自身もさまざまな視点から効果を検証して次のステップに繋げていきたい。

(様式2)

議員行政視察報告書

| | |
|---|-------------|
| 議員名 | 植木だいすけ |
| 視察地 | 出雲市 |
| 視察年月日 | 2024年01月17日 |
| 視察内容（目的・具体的内容・成果等） | |
| 「まちあそび人生ゲーム」について | |
| <ul style="list-style-type: none">・出雲市 人口約17万人 面積約 624 km² 人口密度 273 人/km²・旭川市 人口約32万人 面積約 1,748 km² 人口密度 430 人/km² (出雲市は本市の人口の約半分、面積は約1/3、人口密度は約2/3) | |
| <p>出雲市は島根県内で2番目の人口規模を誇る都市で、2005年の2市4町の合併、2011年の1町の編入により現在の出雲市となっている。出雲大社をはじめとした豊富な歴史・文化遺産のある神聖な地として認知されており、まつわる街並みが形成されている。また縁起の良い「縁結び」のまちとしても人気があり、観光にもつながっている。</p> | |
| <p>「まちあそび人生ゲーム」の視察には、同イベント考案者で出雲市職員・NPO法人出雲まちあそび研究所理事長である田中寛氏本人から直接説明を受けることができ、よりリアルな話を聞くことができた。</p> | |
| <p>「まちあそび人生ゲーム」は商店街を舞台としたリアル人生ゲームで、2013年の初開催以来回数を重ねており、「タカラトミー」から公認をもらう際には受け皿としてNPOを設立。ユニークな事業のため大手メディアに取り上げられたことで全国に知れ渡り、同NPOが窓口となり、関心を持ち実施意欲のある他の街に積み重ねたノウハウや道具が提供され、同NPO監修の下で全国で「まちあそび人生ゲーム」が開催されるようになっていく。道内では岩見沢市で過去に数回開催され、昨年には札幌市の発寒の商店街でも実施されるなど昨年未までに全国36カ所で開催されており、継続して回数を重ねている地域もある。</p> | |
| <p>「人生ゲーム」は、日本人の認知度86%、遊戯経験64%（2017年タカラトミー調べ）に上る国民的ボードゲーム。ルーレットを回してマス目を進むスゴクゲームで、マス目に書いてあるイベントに基づきゴールを目指しながらゲーム上のお金を稼ぎ、稼いだ金額を競うゲームである。数字からも家族や友人と賑やかに遊んだ思い出が残っている人が大勢いることがわかる。</p> | |
| <p>同氏が10数年前に合併前の旧平田市（人口3万人）の産業振興部門でシティセールス事業を担っていた頃、他の自治体と同様に平田市でも商店街ステージを設けて行うような地域のイベントを実施していたが、関係者からは「本当にイベントが地域の活性化につながっているのか？」という問いかけを受けることがあった。開催場所は確かに商店街ではあるが、人が集まるステージに人流が集中。商店街に関わる方々は店を不在に</p> | |

して音響や駐車場係など裏方に関わることが多く、来街する方に商店街をアピールできず、儲かるのは外部からイベントのために来た出店者という構図が当たり前になり商店街が疲れてしまうジレンマがあったといい、これはもったもだと感じた。

そんな中で「まちあそび人生ゲーム」が生まれたのは、商店街や商工会議所の方々の懇親会で、20代の若者との「子供の頃どんな遊びをしていたか？」という何気ない問いかげの中で「人生ゲーム」と答えた方がおり、話しているうちに「人生ゲーム」のエッセンスをリアルに置き換えて、街をボードに繁華街の店舗をマス目に見立てて遊んだら楽しいのでは、と盛り上がったことがきっかけという。そのアイデアを発端に、同氏がなんとか実現できないだろうかと商店街関係者に相談・説得し、手探り・手作りで取り組んだことで、2013年の開催にこぎつけたという。

同イベントでは、3、4名のチームが「人生ゲーム」のルーレットを回しマップのマス目にあたる店舗を訪問するため、多くの参加者が商店街を回遊して人流が起きる。一度も入ったことのない店舗に入るには何かしらの心理的負担があるものだが、このイベントではゲームの一環として入店するため、心理上の負担を見事に解消していると言える。一方、店主は自分の店舗で参加者の対応をすることができ、そこから将来の顧客に結びつけることができる。

参加者はお店で発見をしたり親近感を持ったりするきっかけに、店主は普段と異なる客層とも多くのふれあいが持て、自分のお店の強みを再認識するきっかけになっている。

当初、自分の店舗にはあまりメリットはないが商店街とのお付き合いで参加したという店主も、開催後にはすっかりモチベーションが上がり、翌年には自ら参加者向けの企画を実施するようなこともあるという。

運営上の工夫としては、ただ店を訪れるだけにならないよう、イベントに向けてPOPの書き方や商品のディスプレイの仕方のアドバイザーを設けて、来店者へ訴求できるような取り組みが行われており、またその後の商売にも結びつくように、プチ体験や試食・試飲・試供品の提供、クーポンの配布などさまざまな取り組みを推奨し共有している。イベントは1日でも、こういったことを積み重ねることは重要で、商店街にポジティブな意識の変化をもたらしていると思う。

「あくまで店舗に人を連れてくるツール」とのことで翌日からの商店街が活性化されるというような即効性がある訳ではないが、普段では生むことが難しいコミュニケーションを生むことができ、知らなかったお店がゲームを通して「知っているお店」になることは最大のメリットであると思う。実施後の参加者アンケートでは、「楽しくなかった」と回答する方はほぼおらず、参加者のほぼ全てが満足感を示す稀に見る人気のイベントとのことで、効果面も大変有意義であると感じた。費用はかかるが大変ユニークなまちあそびコンテンツとなっており、旭川の商店街での実現可能性を探っていきたいと思う。

(様式2)

議員行政視察報告書

| | |
|--|-------------|
| 議員名 | 植木だいすけ |
| 視察地 | 武蔵野市 |
| 視察年月日 | 2024年01月18日 |
| 視察内容（目的・具体的内容・成果等） | |
| 武蔵野クリーンセンターについて | |
| <ul style="list-style-type: none">・武蔵野市 人口約15万人 面積約 11 km² 人口密度 13,687 人/km²・旭川市 人口約32万人 面積約 1,748 km² 人口密度 430 人/km² (武蔵野市は本市の人口の約半分、面積は約1/16、人口密度は約32倍) | |
| <p>東京都のほぼ中央に位置する武蔵野市は、早くから市民参加型のまちづくりに取り組み、住民生活に根ざした数々の独自事業を行ってきた背景があり全国の自治体のモデルケースとなる施策が多いことから、「革新自治体」と呼ばれている。住みたい街ランキングでは同市の吉祥寺地区が常に上位にランキングされている。</p> | |
| <p>初代クリーンセンターは別の場所にあったが都市が隣接しており、また高度成長に伴ってゴミの増大化が進んでいたため隣の調布市からごみ焼却の公害に対する反対運動が起こった経緯がある。市民代表、一般市民、専門家で構成される委員による「武蔵野方式」と呼ばれる市民参加の議論を進め、1984年に街の真ん中、市役所の隣で旧クリーンセンターを稼働。現在のクリーンセンターは、各種委員会・協議会により一層の市民参加による議論・合意形成を経て、その旧クリーンセンターに隣接する形で建設された。稼働後には旧クリーンセンターの一部をそのままリノベーションして環境啓発施設「むさしのエコreゾート」とし、それ以外を解体し、環境に配慮した緑一面の広場に生まれ変えている。</p> | |
| <p>施設のコンセプトを、地球温暖化対策を意識した「①環境の保全に配慮した安全・安心な施設づくり」、東日本大震災を契機にした「②災害に強い施設づくり」、迷惑施設からの脱却を目指した「③景観及び建築デザインに配慮した施設づくり」「④開かれた施設づくり」としており、クリーンセンターには見えない都会的な施設として旧来のイメージの脱却を図ることに成功している。施設内2階には自由に周回して見学できる自由通路がありガラス越しに各設備や稼働状況を覗くことができ、パネルや映像などを通して学習することができる。「むさしのエコreゾート」はまちづくりや環境問題に対する取り組みの啓蒙、市民活動の拠点として活用され、広場やクリーンセンター周辺は憩いの場になっているほかイベントに活用されるなど市民からもポジティブな存在となっており、施設管理を担っている荏原が持つイベントノウハウによって「エコマルシェ」、屋上での「収穫体験&観察会」、「オープンハーベスト」、「こどもワークショップ」といったイベントが行われているという。</p> | |

事業は公設民営で 20 年間運営の包括契約。2 炉で 1 日に 120 トンを焼却でき、不燃ごみ・粗大ごみを破碎・選別できる施設を併設している。焼却による発電を年間計画発電量約 15,000Mwh、計画エネ効率 20.5%としており、隣接する市庁舎、総合体育館・温水プール、コミュニティセンター、中学校などに、自営線による電気と供給導管による蒸気を連続的に供給してエネルギーを賄っている。また、蒸気タービンによるごみ発電機以外に常用兼非常用としてガス・コージェネレーション設備を導入しており、万が一の大規模災害時にも電力会社からの電力供給を待たずに「ブラックアウトスタート機能」で焼却炉の再稼働ができるため、災害時に対策拠点となる周辺公共施設に継続して電気・蒸気を供給でき行政機能を維持できるという。

同市では地域の低炭素化推進のため、再生可能エネルギー由来の電力を地域内で作り公共施設で消費する「エネルギーの地産地消プログラム」を進めているが、「創エネ」「畜エネ」「省エネ」を組み合わせた同プログラムは、CEMS・BEMS の導入、省エネ改修、太陽光発電の設置、畜エネ化設備の導入、自己託送制度の活用（市立の 18 小中学校）、PPS（登録小売電気事業者）への切り替えに及ぶ。エネルギー需給の最適化を図り「昼夜のエネルギー需給ギャップの平準化」によって二酸化炭素排出を削減し、エネルギーの地産地消率 100%を目指し、クリーンセンターを核とした低炭素化スマートシティのエリアモデルの確立を目指している。

今回武蔵野市の徹底した先進的な取り組みを大変羨ましく拝見した。とても機能的であり、市役所の隣にあることで災害時にその電気・蒸気により行政機能を維持できることは大変大きな価値があると思う。また、武蔵野の雑木林をイメージしたというクリーンセンター外観は、まちなかでありながら地域に溶け込み、ごみ施設だからこそ衛生的に、と言っているかのような施設はいつでも見学ができ、フリースペースでは地域の学生が勉強する姿があるという。排ガス等の測定値は、屋外遊歩道などに設置されたサイネージでいつでも見ることができるなど環境の見える化がなされており、そういった 1 つ 1 つが市民の環境への関心・意識に変化をもたらす効果は大きいと感じる。

ゼロカーボンシティを宣言している旭川市は、施設の老朽化が進んでおり、SDGs の観点や環境意識の高まりを受けて、今後どうあるべきなのか、市民にとってどんな存在であるべきなのかをしっかりと検証し、更なる延命化を図って使い続けるのか、新設するのか、さまざまな観点からしっかりと検証すべきであると感じた。

実際に視察をすると私自身の理解度が足りない部分を痛感した。この視察を機会に本市の環境に対する取り組みについてしっかりと学び、関心を持って取り組んでいきたいと思った。